

TOKYO
CREATION
AWARD
1993

東京クリエイション大賞



賞牌制作
岡本太郎

制定主旨

21世紀を目前に控え、私たちの生活やそれを取り巻く環境、文化、産業も質的な向上が求められています。本賞はそれらのより快適なあり方を発想し、デザインする、未来に向け足跡を残しうるクリエイションワークを発掘、表彰していきます。このことにより、東京が名実ともにクリエイティビティと活気あふれる国際都市として発展していくことを期して制定されました。

新しい時代の都市生活の創造に向けて、既存の賞の枠組みを超える権威と価値体系のもと、1987年よりスタートし、本年度は第7回の受賞者の発表と表彰になります。

海外賞

伝統芸術である バティックペインティングの 現代化(マレーシア)

◆表彰理由

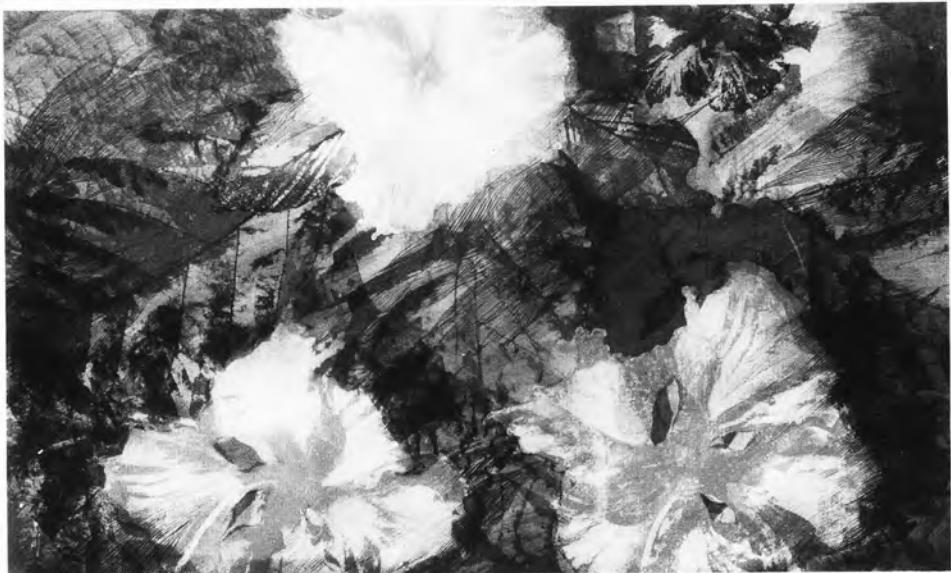
元来、その泥臭さのために芸術品というよりも衣類などの実用品として利用されてきた伝統芸術バティック(ろうけつ染め)を、版画や型染、リトグラフなどの現代的技法を用いた新しい創造力と融合させ、モダンアートにまで高め、世界的に「バティックペインティング」を認知させた。

南アジア諸国にとって、伝統芸術が外国の技術と融合し新たな展開を見せたことは、同地域の発展の可能性と将来への希望を感じさせ、士気の高揚にも大いに貢献している。



【受賞者】

李 健省 殿
(Lee Kian Seng)



Title/Bunga Raya Series



Title/Spring

◆解説

「バティック」とは、日本でもお馴染みの「ろうけつ染め」のことである。そもそもは「点」の意のジャワ語だつたが、その後語義を広げて、現在では技法のみに限らずろうけつ防染によって染められた染色品をも指す。最もポピュラーなのが、ジャワ更紗で有名なインディアン・バティックである。

ろうによる手描きの技法は、かつて南インドのコロマンデル沿岸で栄えた

が、その後インド国内ではあまり発達しないままジャワに伝来し、ジャワ古来のデザインと融合してジャワ更紗として実を結んだと言われる。以来、南アジア諸国でこの「バティック」の技法が取り入れられるようになった。南アジアにおいては、実用品として重宝されている伝統芸術である。

そして現在、マレーシアの李健省氏 (Mr.Lee Kian Seng) の手により「バティックペインティング」というモダンアートとして脚光を浴びるに至っている。氏は独学で絵画と彫刻を学び、その後のアーティストとしての活躍が認められ、日本の国際交流基金の招請芸術家として東京芸大および東京版画研究所で型染やリトグラフを研究。版画や型染から靈感を受け、バティックペインティングと学んだ現代的技法との融合により新しい芸術世界を創造したわけである。

この伝統芸術の新しい展開は、南アジア諸国の文化水準の向上の一役を担うと共に、今後の南アジア文化の拡がりと可能性を期待させる。



Title/Spring

◆解説

「バティック」とは、日本でもお馴染みの「ろうけつ染め」のことである。そもそもは「点」の意のジャワ語だったが、その後語義を広げて、現在では技法のみに限らずろうけつ防染によって染められた染色品をも指す。最もボビュラーなのが、ジャワ更紗で有名なインディアン・バティックである。

ろうによる手描きの技法は、かつて南インドのコロマンデル沿岸で栄えた

が、その後インド国内ではあまり発達しないままジャワに伝来し、ジャワ古来のデザインと融合してジャワ更紗として実を結んだと言われる。以来、南アジア諸国でこの「バティック」の技法が取り入れられるようになった。南アジアにおいては、実用品として重宝されている伝統芸術である。

そして現在、マレーシアの李健省氏 (Mr.Lee Kian Seng) の手により「バティックペインティング」というモダンアートとして脚光を浴びるに至っている。氏は独学で絵画と彫刻を学び、その後のアーティストとしての活躍が認められ、日本の国際交流基金の招請芸術家として東京芸大および東京版画研究所で型染やリトグラフを研究。版画や型染から靈感を受け、バティックペインティングと学んだ現代的技法との融合により新しい芸術世界を創造したわけである。

この伝統芸術の新しい展開は、南アジア諸国文化水準の向上の一役を担うと共に、今後の南アジア文化の拡がりと可能性を期待させる。

東京クリエイション
Tokyo Creation

34

Tokyo Fashion Association



特集 東京クリエイション'98

「バティック・ペインティング」 をもっと知りたい!



今回の東京クリエイション大賞海外賞の受賞からもうなづけるよう、近年、マレーシアの伝統芸術であるバティック（ろうけつ染め）がモダンアートとして注目を集めている。

バティック自体は何ら変哲のない染色技術に他ならないが、現代的技法による新しい創造力との融合により、「バティック・ペインティング」というモダンアートの水準にまで高まってきた。その結果、そして今や、この「バティック・ペインティング」の拡がりが南アジア諸国との文化水準の向上の一役を担うにまで至っているといふ。

そこで「バティック・ペインティング」の魅力を探つてみた。



マレーシア観光案内にも紹介されている李氏の作品

Malaysia's Modern Master

Lee Kuan Seng comes from Malaysia's most prominent artistic family. Having won numerous awards, he has sold more than 200 artworks throughout the world, including art shows, and has exhibited the arts extensively in 12 countries. His works are in the collections of 12 countries.

Known for his innovative painting methods, he works in a wide range of media; he is also a well-known printmaker, particularly printmaking between traditional and historical techniques. Lee Kuan Seng uses processes such as high-heat incineration,

incorporating his outstanding knowledge and experience in the arts and crafts, and his deep love for the Malaysian environment. In 1984, the Japan Foundation awarded him the Asahi Prize. In 1990, he received the Gold Medal of the Royal Society of Arts.

Kuan Seng's works are in the National Art Gallery and the National Art Museum of Malaysia, among other places.



photography of Lee and Yang, the opening ceremony of the 1990 Commonwealth Games in the UK, and many other events. A deeply religious man, Lee is well known for his deep admiration for Buddhist philosophy. He is also a keen collector of Buddhist art.

According to Kuan Seng, the modern trend in Malaysian art is a Malaysian way of life. He believes that art must reflect the needs of the people and the environment of their surroundings, such as a universal setting.

Lee Kuan Seng's work is a record of the records of the artist's life, and it is also a record of his family's life and experiences. For visitors to Malaysia, he has participated in the annual Valentine's Day exhibition at the National Art Gallery, featuring the best of Malaysian contemporary art.

Lee Kuan Seng's work is a record of the artist's life, and it is also a record of his family's life and experiences. For visitors to Malaysia, he has participated in the annual Valentine's Day exhibition at the National Art Gallery, featuring the best of Malaysian contemporary art.

Lee Kuan Seng's work is a record of the artist's life, and it is also a record of his family's life and experiences. For visitors to Malaysia, he has participated in the annual Valentine's Day exhibition at the National Art Gallery, featuring the best of Malaysian contemporary art.

アートとして 素地を持つバティック

ろうけつ染めは日本でも馴染み深い染色技法だが、「バティック」の語義を紐解くと、もともとは「点」の意のジャワ語である。その後語義が拡がり、現在では技法のみでなくろうけつ防染によって染められた染色品をも指すようになった。

バティック——ろうによる手描きの技法は、かつて南インドのコロマンデル沿岸で栄えたが、その後はインド国内ではあまり発達することなくジャワに伝来し、ジャワ古米のデザインと融合してジャワ更紗として実を結んだと言われる。それ以来、南アジア諸国でこのバティックの技法が取り入れられるようになつた。そして、南アジアにおいてはその泥臭さのため主に衣類などの生活に密着した実用品として数多く利用されてきた。

そういう歴史的経緯もあり、芸術品に利用されることもほとんどなく、あくまでも伝統芸術という範疇でしか捉えられていなかつた。ただ普及率はめざましく、日本はもとよりヨーロッパでも魅惑的な工芸技術としてアカデミックな形態で以て半世紀ほど前から並及している。

芸術的見地から言えば、油絵や水彩画などの純粹芸術と異なり、一度プロセスを終えてしまうと、もう直すことができないという実に顕著な特徴が挙げられる。



3-D WORK「Vision2020」を解説中の李健省氏



2-D 作品をバックに李氏



しかし、感情や思想の表現を強調するに最適な、柔軟性のある芸術として評価されている。その意味では十分にアートとして展開されるだけの素地が備わっていると言えます。

モダンアートとして 新たな芸術世界を見せたバティック

今回の東京クリエイション大賞海外賞の受賞者、李健省氏が「バティック」に取り組み始めたのが一九六三、四年ごろ。以後のバティックとの関わりの中で、こ

の愛すべき伝統芸術を何とかモダンアートに高めることはできないかという考えが頭をもたげてきました。あろうことは想像に難くない。彼のアーティストとしての創造力と、自国の伝統芸術への思い入れという愛国心がクロスした時点で、「バティック・ペインティング」は開花すべく種が蒔かれたと言える。

そして一九七六年、それまでのアーテ

ィストとしての活躍が認められた李氏は、日本の国際交流基金の招請芸術家として東京芸術大学および東京版画研究所で、トグラフや型染を研究する機会に恵まれ

る。その東京での研究生活で学んだ現代的技法とバティックとの融合により、新しい芸術世界が創造されたのである。以来、「バティック・ペインティング」の第一人者として数々の作品を発表してきている。

李氏の談話によると、「第一人者」といふのは私だけ」ということらしい。日本においても、本誌が調べた限りではまだ取り組んでいるアーティストはない。その意味では、単純計算でも十六、七年の間、あまり手垢にまみれることなく育

まれてきた、いわばネオ・モダンアートともいべきものかもしれない。そして今回、「発見・発掘」というテーマを持つ東京クリエイション大賞の選考過程において浮上してきたのである。

言わずもがな、確かにマレーシアにおいては、著名なアーティストである李氏のアート作品として誰もが知るところの現代芸術としてすでに高い評価を得ていた。李氏のバティック・ペインティングの作品を見ると、抽象的な表現になるが、やはり油絵や水彩画では決して出し得ないであろうバティックならではの艶とい

うか、味というか、強い個性とオリジナリティが感じられる。また、バティックの技法上のもう一つの制約である、あらかじめ決めておいた色しか使用できないというルールが、より密度の高い作品に仕上げるために効を奏しているような気がする。

現代芸術としての今後の期待

取り敢えず今回の受賞をきっかけに、このネオ・モダンアートの更なる拡がりが期待されるわけだが、おそらくマレー

シア国内において二回目、三回目……e

t.c.の李氏の登場は難しいような気がする。なぜなら、現在においても李氏以外にバティック・ペインティングのアーティストが存在していないことは

マレーシア国内におけるバティック・ペインティングの分野はいわば聖域のようになっているような気がするからである。

李氏自身、「今回の受賞は、現代美術における私のバティック・ペインティング技

術の将来へのさらなる意欲と試みを導くものとなつた」と受賞後の談話の中で語

つていることからも、自分自身の技術の研鑽こそがバティック・ペインティングの拡がりにつながるという自信と、誰にも侵されたくないという強固な意志を感じられる。

そうすると、やはり日本や欧米で染色技術としてバティックを学んでいる織家の卵の中からバティック・ペインティングに情熱を傾けるアーティストが出てくることが望まれる。

これから二年後、三年後、そして五年後、日本あるいは欧米から李氏に勝るほ

どのバティック・ペインティング・アーティストが一人でも多く登場することで、マレーシアひいては南アジア諸国との文化交流が水準のさらなる向上が期待できる。そしてバティック・ペインティングを通して、さまざまな形で世界的規模の文化交流が推進されれば、これほど素晴らしいことはない。いよいよ注目を集め始めたバティック・ペインティングと李健省氏。次

なる展開と可能性が楽しみになってきた。アートとなる予感がする。



Bangunan Sultan Abdul Samad,Kuala Lumpur



Kuala Lumpur Railway Station

City Hall,Kuala Lumpur



伝統芸術に生かされた 現代的アプローチ(手法)

「ややかな女性の描写や地域色の強
い花々(ハイビスカス、蓮の花)など、
李氏の作品にみられるさまざまな表現
は、李氏自身「クリエイターとして、

また思想家として両方の立場にいる」
と語っていることを裏付けるように、
アジア的宇宙思想を一層強いものにし
ていると言える。



未来に発信する クリエイションワーク

新しい都市生活の創造に向けて、私たちを取り巻く環境や文化、産業も質的な向上が求められている。

それらのより快適なあり方を発想し、デザインする、未来に向け足跡を残しうるクリエイションワークを発掘、表彰するため制定されたのが「東京クリエイション大賞」だ。当協会のメインイベントの一つであると同時に、毎年、各界からの注目を集める賞でもある。「二十一世紀をすぐそこに控え、「未来社会」が現実になる日も間近だが、その未来に向けて技術、活力、希望を発信するクリエイションワークに対して、今年も各賞が贈られた。

東京クリエイション大賞・第8回ダイヤモンドレディ賞 表彰式

主催 社団法人 東京ファッション協
DOKI DOKI TOKYO



Tokyo Fashion Association

Tosho Bidg, 3-3-2 Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo 100, Japan
Phone. 03-3213-7455-9 Fax. 03-3214-6826

23 September 1993

Mr Lee Kian Seng

Tokyo Fashion Association
Tokyo Creation Award Operation Committee

Chairman of the Committee: Fukuhara Yoshiharu

Notification of the decision for "the Grand Prize of the 7th Tokyo Creation Award"

Dear Sir,

I am happy that you are all fine and doing well.

This association is an organisation certified by the Tokyo Metropolitan Government which was established by the Tokyo Chambers of Commerce and Industry in 1985 with the goal of "Creating an Affluent Life and Culture".

We have been conducting various activities and the most symbolic project among them is the honouring system, "the Grand Prize of the Tokyo Creation Award" that has been established to recognise and praise the excellent creations of art related to general life and culture.

We are pleased to inform you that you have been selected for the "Overseas Prize" of "the Grand Prize of the Tokyo Creation Award" for this fiscal year.

Therefore, we would like to inform you of the reason for your selection and the contents of the award, as attached. We hope you can participate in the commendation ceremony and the commendation reception.

Yours faithfully

Certified as a True Translation
from the Document Provided by the Client



Institut Terjemahan & Buku Malaysia

Malaysian Institute of Translation & Books
Wisma ITBM, No. 2, Jalan 2/27E
Seksyen 10, Wangsa Maju
53300 Kuala Lumpur
MALAYSIA.
www.itbm.com.my
(276206D)

Certified on behalf of ITBM

Jasmani Mardi

Senior Executive

Signature : 

Ref. No. : 97728

Date : 14 MAR 2018

The Grand Prize of the 7th Tokyo Creation Award

"Overseas Prize"

Modernisation of Batik Painting as a traditional art

To Mr Lee Kian Seng

You have made batik, which has been employed in daily use, flourish by applying the acquired modern technique such as Yuzen dyeing, stencil dyeing, or lithograph, etc, and made "batik painting" recognised throughout the world.

This new development in traditional art through the amalgamation of foreign techniques has enlightened us to the future development of potential in South Asian countries, contributing to uplifting of the morale of people in South Asian countries.

We hereby award you the "Overseas Prize" and praise your achievement.

25 October 1993

Tokyo Fashion Association

Certified as a True Translation
from the Document Provided by the Client

President



Institut Terjemahan & Buku Malaysia

Malaysian Institute of Translation & Books
Wisma ITBM, No. 2, Jalan 2/27E
Seksyen 10, Wangsa Maju
53300 Kuala Lumpur
MALAYSIA.
www.itbm.com.my
(276206D)

Certified on behalf of ITBM

Jasmani Mardi

Senior Executive

Signature

Ref. No.

Date :

97728

14 MAR 2010

The Grand Prize of the 7th Tokyo Creation Award

"Overseas Prize" Modernisation of Batik Painting as a traditional art

"Overseas Prize"

1. Reason for the Prize

You have made batik which has been employed in daily use flourish by applying the acquired modern technique, stencil dyeing, or lithograph, etc, and made "batik painting" recognised throughout the world.

This new development in traditional art through the amalgamation of foreign techniques has enlightened us to the future development of potential in South Asian countries, contributing to uplifting of the morale of people in South Asian countries.

2. Award contents

- (1) Award winner: Mr LEE KIAN SENG
- (2) Certificate of commendation
- (3) Medal (designed and produced by Taro Okamoto)
- (4) Prize: 500,000 yen

3. Award Ceremony

- (1) Date: 25 October 1993 (Monday) 16:30~19:30
- (2) Venue: Tokyo Kaikan

- Award Ceremony / Press Conference : Silver Room 16:30~17:10
- Award Commendation Party: Rose Room 17:20~19:00

- ❖ During the Commendation Party, we will introduce you to the member companies of this association to foster communication with the attendees.

Certified as a True Translation
from the Document Provided by the Client

Queries about this matter:
Tokyo Fashion Association
Planning Business Manager: Yukio Taguchi
Tel.: 3213-7455



Institut Terjemahan & Buku Malaysia

Malaysian Institute of Translation & Books
Wisma ITBM, No. 2, Jalan 2/27E
Seksyen 10, Wangsa Maju
53300 Kuala Lumpur
MALAYSIA
www.itbm.com.my
(276206D)

Certified on behalf of ITBM
Jasmani Mardi
Senior Executive
Signature : 
Ref. No. 97728
Date : 14 MAR 2018

◆Explanation

"Batik" refers to "Rōketsuzome printing" which is very popular in Japan. The word 'batik' was originally "spot" in Javanese language, but the meaning of the word expanded later on and today refers not only to the technique, but also to the dyed products made through the technique of wax-resist dyeing. Indian batik is the most popular, and is known as Javanese cotton prints.

This technique of hand drawing with wax once flourished in the Coromandel Coast of southern India but did not develop within India itself. Instead the art form is said to have been brought to Java where it was influenced by ancient Javanese designs, giving birth to Javanese cotton prints.

Since then many South Asian countries have adapted the batik art form. In Southern Asia, it is a treasured traditional art form used in everyday objects.

And today, Malaysian artist Mr Lee Kian Seng's modern art form of "batik painting" is the centre of attention. Seng, being self-taught in painting and sculpture, was eventually recognised as an artist for his works, and was invited by Japan Foundation to conduct research on "katazomei" (stencil dyeing) and lithograph in the Tokyo National University of Arts and Music and the Tokyo Hanga Kenkyusho. Inspired by stencil dyeing and printmaking, he amalgamates batik painting with the modern art techniques he learnt, creating a new world of art.

With the new development in this traditional art form, and the challenges of bringing the cultural standards of South Asian art to the next level, much can be expected from the influence and potential of South Asian culture.

Certified as a True Translation
from the Document Provided by the Client



ITBM
Institut Terjemahan & Buku Malaysia

Malaysian Institute of Translation & Books
Wisma ITBM, No. 2, Jalan 2/27E
Seksyen 10, Wangsa Maju
53300 Kuala Lumpur
MALAYSIA.
www.itbm.com.my
(2762061)

Certified on behalf of ITBM
Jasmani Mardi
Senior Executive
Signature :
Ref. No. : 977728
Date : 14 MAR 2018



Art

In the forefront of creativity



'Exploring new expressions is a lonely, lonely path, and sometimes takes years. An artist has to be sincere and true to himself to produce something that is contemporary and lasting, without material considerations.'

ellery pendants set in gold (18K) and silver, weighing approximately 5.25g and 36g respectively.

It is an important development of the function of a sculpture from the monumentality and one using creative space to an everyday wear item, in this case, a ready-to-wear "costume" sculpture.

His "living" sculptures, *Hammer And Nail*, are powerful social statements, yet using only handyman tools.

The works are also "extended" into limited edition prints, and reproduced on t-shirts.

Awards such as the Creation Award are not only recognition for Kian Seng's high standards and self-discipline, but also a great motivation to set new goals and face new challenges.

"Exploring new expressions is a lonely, lonely path, and sometimes takes years," he says.

"An artist has to be sincere and true to himself to produce something that is contemporary and lasting, without material considerations."

"I am happy that there are people out there who realise this too."



STANDING PROUD ... the master and his work

Artist Lee Kian Seng has bagged many awards for originality and creativity, his latest being the Tokyo Creation Award Overseas Prize. OOI KOK CHUEN reports...

FOR 30 years, Lee Kian Seng has been at the cutting edge of Malaysian art. Whether working in paintings, batik, print-making (lithography) and sculptures, he is a model of consistency, innovation and excellence.

Many a time, the 45-year-old artist has been recognised with awards for originality and creativity.

His latest accolade is the Tokyo Creation Award Overseas Prize, presented by the Tokyo Fashion Association of the Tokyo Chamber of Commerce and Industry.

Created in 1987, the award, with stringent standards under a selection panel headed by Takemochi Ishii (professor of the Keio Gijuku University), is a sort of "lifetime achievement award".

Kian Seng received it in Tokyo on Oct 25. It came with a medal, certificate of merit and cash prize of 500,000 yen (about RM12,000).

The only other Malaysian to have won it is cartoonist Lat.

Kian Seng's citation read: "(With) His creativity, original approach with the application of modern techniques, Lee Kian Seng has further developed batik into a modern art and has made known worldwide batik/dyes painting."

"The amalgamation of the traditional art with modern technology he has developed and created and subsequent new developments would certainly demonstrate a potentiality and a future hope for progress in the Southeast Asian countries and make a great contribution to raising the morale of the people in the region."

Says Kian Seng: "I'm moved by the honour, and the award is also an honour for Malaysia for it is its environment that inspires me to excel."

For one only self-taught in sculpture, his reinforced concrete sculpture, *The Pair* (1968), showed up his remarkable sensitivity in handling form and materials.

Kian Seng was recently commissioned to do a public sculpture called *Vision 2020* at Public Bank's KL headquarters, Taman Wawasan (Vision Gardens).

In painting, Kian Seng creates a mystical fugue in his Soul and Form and later Origin series - a result of years of painstaking research into batik (Malaysia, Indonesia, China and Egypt) and innovative dye techniques (Japanese like ukiyo-e and yuzen-zome, and German developments).

His Soul and Form series could be traced back to 1972 when he won the major award in the Malaysian landscape national art competition where there were traces of the bangau and the traditional Malay door.

Sources as diverse as the Borobodur, Siva the destroyer, Japanese ukiyo-e erotica, sleek advertising exploitation of women, ethnic crafts and local flora (hibiscus and lotus), complete his backcloth of Asiatic cosmogony.

Often his trademark conch would appear, acting as a unifying force.

The spiritual essence lies somewhere between the flaming desires and shamanistic totems.

In graphic art, Kian Seng's lithographs stand for their rich humanistic symbolism, his yin-yang (positive-negative) dualism, and high technical quality.

His controversial 1977 work - *Of Image, Object, Illusion Off Series Mechanism* (which had the Malaysian flag in reverse) - was arguably one of the first installations in the world, though at that time there was no name to that kind of work.

As it defied categorisation, then,

'Artists are closer to contemporary truths than even social scientists.'

Kian Seng epitomises the artist as both creator and thinker. As he once declared: "Artists are closer to contemporary truths than even social scientists."

His life, as well as that of his artist wife, Shoko Kobayashi, is devoted to excellence in art.

Kian Seng began to show flashes of his precocity when he was only 16, winning the third prize in the oil category of the *Joy Of Living* competition organised by the Arts Council of Malaysia in 1964.

In 1968, he bagged a "double" of third prizes in sculpture and in mixed media in the first Salan Malaysia competition, besides winning honourable mention in the batik section.

it won the first prize for the graphic section of the 1977 Open Art and Graphic Print competition.

In sculpture, Kian Seng's monumental works of stainless steel stand in Jakarta and Kuala Lumpur, while others like *Mankind* (1972, mild steel plate, 160x220x140cm) and *Resumption And Consumption* (1975, wood, 130x130x15cm) have been collected by the National Art Gallery.

Kian Seng is always setting new frontiers. In 1984, he erected the mild steel sculpture weighing 250kg called *Peace, Harmony And One* as part of the Asean Square Sculpture Symposium in Jakarta.

Three years later, he turned this sculpture into limited-edition jew-

谷迪與染色手法創新

著名藝術家李健省 榮獲東京創作大獎

張啓華
本報專訪

(吉隆坡十一日訊) 現年四十五歲的著名藝術家李健省，最近榮膺東京創作大獎的外獎。他在藝術領域裏創得上獎項的海外藝術家。該獎項是表彰在環境、文學、文化、藝術領域裏創造力的人士或藝術團體。

李健省是通過代
創作觀察，這無疑是南
亞洲甚基其至世界上的藝
術發展及發揮於現代艺
術領域，因而获得的肯
定和認可。

他受访時說多年
來的辛苦耕耘肯定
得到回應。不過他表示
：「名譽不是我追求的

終極目標，我只有用亞
洲的題材，去表現亞洲
的情感與意境，把亞洲
固有的文化遺產帶到更
高藝術境界。」

對李健省而言，打
敗了吉隆坡一百三十二名提
名參賽者，並列上述創
作大獎，不單單對他自
己水平的肯定，一種休
育精神與鼓舞著他
迈向新的目標與挑戰。

創作手法革新

根據史實，谷迪與
染色文明的人民和人
類共存的美觀，它
們並不只限于印度或東
南亞的疆域，在古埃

及、印度、中國等文明
古國，已有谷迪／染色
的記錄。

李健省表示，谷迪
／染色的創作，其空
乏是無限的，引伸至其他
的特性創作媒介，道
理也是一樣。關鍵的問
題是如何去開拓它而
已。

谷迪／染色除了是
李健省的其中一種創
作媒介，其他創作媒介
版画、水彩、油畫、墨
畫等。在藝術的廣闊
問題，不论是哪種媒介
，李健省的創作手法都
是大胆革新，揮洒自
如的。

而及今後會在那一
個創作領域開創局面
時，他表達：『新的創
作領域是不能預期和制
意去追求的。我所能做
的，只有我所的一切能
力。』

『探尋新的創作空
間，所走過的是一段彌散
與崎嶇之路，有時會很
累，但月月都有成果。』

榮獲多項殊榮

『艺术家甚至要比
社会科学更接近當代
的史實。』這是李健省
所一直強調的。他認為
：『一名艺术家必須忠
于自己，不把物质為考慮
的情况下，才能創出永
垂不朽的作品。』

李健省十八岁开
始，就在我的和国际艺
坛中崭露头角，榮获国
内或国际的多项殊荣。

他于一九七七年以宇宙
方式处理的『铁錐与
铁钉雕塑系列』，强烈
地展示了当代人性最深
处的感觉与存在元素。
他藉此来表现现代人
的七种心态，藉此传达
了热爱和美的讯息，而
震撼我国和国际艺坛。



▲李健省在前往東京領獎回國後，
和他的一其中一部〈谷迪／染色作品合影。



▲李健省「2020宏願」雕塑，置於馬來西亞的宏願園中，
並於九月間由首相拿督士里馬哈迪醫生主持開幕。

THE STAR MONDAY November 1 1993

NEWS

METRO / 3

Klang artist wins Tokyo award for batik techniques

in Tokyo.

He said although he had won many awards in the past, this was the first one which was awarded for his all-time contribution to batik.

『My other prizes were for particular art pieces so this award is very unique and special,』 he said.
Lee received a trophy and cash prize.

The silver trophy entitled *Man Looking Towards The Future* was sculptured on a black marble base designed by Mr Taro Okamoto.

He said the award came as a surprise, since he was notified about it only in late October.

Lee said the award gave him encouragement to further his experiments using batik dye techniques for modern art.

Besides batik and sculptures, Lee is most popularly known for his sculptures, oil paintings and lithography.



ELEGANT
... Lee
admiring
his trophy.